つながる・つなげる・
子ども若者応援事業

05W-01 胆振・体験から学ぶ推進協議会COLD

裏山を活用した「ようちえんの森」整備手法移転事業

北海道苫小牧市、浦河町、札幌市、鷹栖町

事業概要

小学生を対象に展開している放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての参加者がボランティアとして活動に協力した。土日を活用し、保護者参加のイベント「森っこホリデー」を実施した。蓄積されたノウハウの移転のためにスタッフ研修を行い、別の裏山フィールドで整備活動のデモンストレーションを行った。

事業成果

これまでは、一つの幼稚園の裏山でこだわった活動を展開してきた。様々な人材が育成されるという成果が生まれ、参加者だった子どもが整備の主体者になり、保護者がスタッフとなるなど、多世代による活動が展開されるようになってきた。本事業で出稽古的な機会を得ることができ、自身の技量や経験をより多面的に活かし、より向上させたい、というモチベーションを生み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

・森林を所有する園として、専門家や卒園児、その保護者が手入れをしてくれることは、その後を追う我々としては大変参考になり、有意義かつありがたい。その姿が今の園児、職員にとっては「目標」「憧れ」になる。このように、幼稚園という一つの立場が、森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。（森のようちえん園長）

参加者の声

・OBとして、主体的で専門性の高い活動提供や技術習得ができたことがうれしい。とても面白く、かつての自分を振り返る機会になっている。（大学生ボランティア）
・子どもたちが育った園の森で、今度は私自身の自己実現ができる場と機会になっている。その頃やりたかった活動を今の子たちと、他の保護者の方と展開できることに意味を感じている。（元保護者・スタッフ）

子どもたちによる森林整備デモンストレーション

森のようちえん活動（職員研修）

里山整備で伐採された材を馬で搬出

森林整備で出た材で薪作り

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.5ha
間伐面積：6.3ha
森林資源活用（日常型自然保育活動）：40回
その他：親子イベント、職員・スタッフ研修

参加者数
道内：　81人
道外：　25人
計　：106人

05W-02 森っこ

親子で自然に親しむ活動拡充のための事業

茨城県水戸市、那珂市、茨城町、日立市

事業概要

自然の中で親子のかけがえのない時を過ごすこと。その経験が、自然を愛し、地球規模の環境問題に対する意識と行動へつながることを目指す。身近な自然の中で、子どもはのびのびと五感を使って遊び、大人は癒され元気になる。主な活動は、4～12月まで月3回程の定期活動の開催と、土曜にファミリーデーの開催、水戸市や他団体が主催する環境や子どもに関するイベントに出店を行った。

事業成果

活動エリアにあまり知られていない緑豊かな公園、山などを加えたことで、参加者が乳幼児と過ごせる自然環境のある場所を知ることができた。他団体の協力を得て、子育て中の大変さを緩和する緑の中の癒しの会（森林セラピーやヨガ）を開催できた。また水戸市と協力し、森林公園フェスティバルや水戸市環境フェアに出店し、活動のPRと募金呼びかけの場をつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

・日中、親と子のみで過ごすことの多い方にとって、親1人でなく、スタッフや参加者みんなで子どもを見守り遊ぶことは、とても気分転換になっていると思う。
・森や川などの自然の中で活動することによって、子どもたちは、のびのびと自由に遊び、時にはすごく集中している表情が素敵だと思う。（正規スタッフ1年目、30代女性）

参加者の声

・森の中を散策しながら、身近な草花や虫のことを知ることができてとても楽しい。ファミリーデーでは、少し歳の離れた子どもたち同士の交流があり、互いによい影響を与え合っていると感じた。自然の中で子どもたちはのびのびと遊び、大人もゆっくりと話す時間があり、親子ともにとても充実感に満ちあふれたひとときを過ごせる。（参加者30代女性）

春の大鍋さんぽ

環境フェア出店

せせらぎあそび

クリスマス木工工作

実績とりまとめ

作業内容
定期活動、ファミリーデー、森林フェス、環境フェア：12回

参加者数
県内：214人
計　：214人

05W-03 子育て支援ステーションニッセ

「木育」を通した里山コミュニティづくり

千葉県千葉市

事業概要

未就学児と小中学生の親子を対象とし、「木に親しみ、木から学び、木と共に生きる」という『木育』の考え方を軸に、以下の内容を実施した。①森林循環について、実践を通して理解を深める、②木や森と人（生き物）の暮らしのつながりを学ぶ、③森に棲む多様な生き物の生態や自然環境とのつながりを学ぶ、④木育普及啓発イベントで新たな参加者を募り、同時に森づくりの担い手を養成する。

事業成果

森や自然の中での子どもたちの育ちに関する講演会の開催や、隔週のサークルタイムで未就学児の親子が頻繁に森に集う機会を設けることができ、新しい森づくりの担い手を獲得、養成することができた。継続して参加している子どもたちが小学校高学年から高校生になり、異年齢の子どもたちが一緒に活動することで森に関する知識や技術が受け継がれていく様子が非常に印象的な１年となった。

事業をよく知る関係者の声

・森では大人も子どもも皆で関わり合いながら活動している。今後も家族の枠で閉じるのではなく、体験や学びを共有し合える環境（コミュニティ）づくりを目指していきたい。（40代サポートスタッフ）
・今年度行った森の樹々に関するクイズラリー等を今後も活かして、新しい参加者が楽しみながら森に親しめる機会を意識的に設けたい。（40代サポートスタッフ）

参加者の声

・子どもも信頼されて大人と同じように道具を使わせてもらえることが誇らしげな様子だった。（小学生保護者）
・森や生き物について、講師のほか普段あまり関われない中高生にも教えてもらっていて、異年齢で関わりながら森について学べる環境がすばらしかった。（幼児保護者）
・どのようにすれば苗木が大きく育つのか分かった。また森に来て樹々の成長を見るのが楽しみ。（小５男子）

子どもたちが「自分でやりたい」と意欲的に取り組む

森の中での読み聞かせ

森の樹々に関するクイズラリー

親子が頻繁に森に集う機会を設けることができた

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.12ha
植付本数：32本
樹勢回復：10本
下刈面積：0.28ha
除伐面積：0.03ha
間伐面積：0.02ha

参加者数
県内：1,202人
県外：　86人
計　：1,288人

樹種
マテバシイ、ウメ、モミジ、アオダモ、ヤマアジサイほか

05W-04 （特非）フジの森

森が好きになるキッズキャンプ場

東京都檜原村

事業概要

未就学児や小中学生が、森で木と触れ合うことで森の楽しさを知り、森の保全活動に興味を持つことを目指すキャンプ場を整備する。主な活動は、①川の生き物探しと森を歩き、薪割り、②自然観察と流しそうめん、③木工クラフトとたき火でダッチオーブン、④柴刈り、薪割りと薪窯のピザ、⑤スギの葉のクリスマスリース作りとカレー、⑥火起こしとヨモギ団子作り、インデアンテントを体験。

事業成果

森の楽しさが体験できるように、季節に合わせたプログラム、食事を提案した。森の中で歩くこと、生き物を探すこと、森で枝を拾い工作に使うことや、薪として利用すること、様々な道具で丸太を割って薪にすることなど、子どもたちには新鮮な体験だった。また森に来たい、森で遊びたい、森で美味しく食べたいとの声も聞かれ、このような企画をさらに発展させたい。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちが夢中になるのは、普段はできないたき火など火に関連するプログラムだ。このフジの森として、森の手入れ、間伐、間伐材で薪割り、薪を使った料理で、薪窯で焼くピザ、焚火でダッチオーブンやマシュマロ焼き、薪コンロでウドンなど、森の手入れと食を結び付けているのは、良い着眼点である。子どもたちに、火の怖さ、扱い方を教えるにはすばらしい環境を備えている。

参加者の声

・沢では、石をめくったら意外とたくさんの生き物がいて、探すのがとても楽しかった。（中学生）
・舞錐式の火おこしは、コツが分かるまでに時間がかかり、いやになったが、最後に炎が大きく燃え上がった時は、頑張ったかいがあったとうれしかった。（小学生）
・ヨモギ団子は、切ったりしているときにいい香りがして、なんて贅沢なことをしているのだと感動した。（母親）

渓流で生き物探し

油圧薪割り機で丸太を割る（柴刈り、薪割りと薪窯のピザの回）

昼食は薪窯で焼いたピザ

スギの葉のクリスマスリース（リース作りとカレーの回）

実績とりまとめ

作業内容
自然観察：２回
クラフト：２回
柴刈り：１回
火起こし：１回

参加者数
都内：60人
都内：31人
計　：91人

05W-05 ライフラボ多摩

里山と私たちの暮らしのつながり事業ー森の恵みを生活に還元するー

東京都町田市

事業概要

子どもが将来、身近な自然の恵みを生活に組み込むことを目指し、里山資源の循環とカーボンニュートラルの仕組みを体験する。そのために、親子自然体験プログラム（全6回）を次の内容で実施した。①地域の里山の現状を知る、②里山の恵みを循環させる生活を体験する、③エネルギーとしての里山資源の可能性を実感する。また、里山を活用してこれらの活動ができるように整備を進めた。

事業成果

親子を対象とすることで、子連れで里地里山での活動に参加しやすくなった層、子どもに体験させたいという層の参加があった。一方で大人のみや学生の参加もあり、多様な世代の交流の場ともなった。子どもにとっては、里山で自然の恵みを比較的身近な場所で体験する機会となった。大人にとっては、地域の里山の恵みとそれを保全することの大切さの再確認ができた。

事業をよく知る関係者の声

・親子自然体験プログラムは、里山の自然の恵みやつながり、野菜を育てる際の様々な方法や動向、食と農を考える視点などについて専門的な解説があり、充実した体験ができるようになっていた。事業目的「子どもが将来、身近な自然の恵みを生活に組み込むことを目指し、里山資源の循環とカーボンニュートラルの仕組みを体験する」は、五感と知識の両面から提供できたと感じる。（大学教員）

参加者の声

・地元の堆肥で野菜を作ることで、地域で、ものが循環していることを実感した。（20代女性）
・有機の農場と周辺の里山の環境は貴重で、残していかなければならないと思う。（40代女性）
・収穫の際、下の方の土まで触ることができ、とてもふかふかした状態であることに感銘を受けた。細かくなった腐葉土もありその感触も五感で感じた。（60代男性）

シイタケ植菌（親子自然体験）.

シイタケ仮伏せの前で集合写真

シイタケの本伏せ

収穫したジャガイモをソーラークッカーで茹でる（親子自然体験）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.02ha
除伐面積：0.05ha
森林資源活用：１回
森林資源活用：２回
親子自然体験プログラム：６回

参加者数
都内：78人
計　：78人

05W-06　(一社) Silva

知る和が広がる！子供たちと森づくり体験教室

東京都品川区、港区、神奈川県横須賀市

事業概要

日本の森林を守るためには次世代である子どもたちに森の機能や役割を伝えていき、森林の重要性を知ってもらう必要がある。根源である自然の重要性を知り、関心を持たなければ、人間はどんどん自然からかけ離れた存在になってしまうことに危機感を抱いている。そのために、４小学校の子どもたちを中心に森の講座や植樹体験、調査、植樹前の準備作業などを一緒に行い、森の重要性を伝えた。

事業成果

森の講座や森を活かすための作業や植樹体験を次の内容で行った。①「前年度学校内に植樹された潜在自然植生種の苗木を当事者である児童の手で追跡調査するための毎木調査」「校庭内で本来の植生を用いた森の再生に挑戦する中で地元の植物や景観も学習しよう！と地域の景観巡り」、②小学校の新校舎誕生時に校庭へ移植予定の森の『種』ともいえる小さな森づくりとして、苗木を記念植樹した。

事業をよく知る関係者の声

・６年生が６つの授業「森の講座・土壌調査・土壌づくり・植樹・経過観察・戸越の鎮守の森巡り」を通して、森の豊かさや環境を守る大切さを学んだ。Silvaの熱いメッセージが子どもたちの心に響き、今年度も６年生がこの活動を引継いでいる。卒業生が、森づくりへの自分なりの考え方をもって巣立ってくれることを誇りに思う。（学校長）

参加者の声

・ぼくの将来の夢は自然を守るネイチャーガイドになること。学校で学んだ自然の大切さを観光客に伝えたい。（小学生）

・この前は毎木調査のやり方を教えてくださり、ありがとう。最初は木の測り方が分からなかったけど、上手く測ることができた。木のことについて少し知ることができたと思う。（小学生からの手紙）

植物観察会

森の講座

森の作業

植樹祭

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：333㎡
植付本数：3,000本
植物観察会：１回
森の講座：１回
森づくり体験：１回
植樹祭：１回

参加者数

県外：140人
計　：140人

05W-07　田園調布学園大学みらいこども園　園庭委員会

子どもたちの感性を育む園庭の森づくり

神奈川県川崎市

事業概要

都市の乳幼児期の子どもたちのセンス・オブ・ワンダー（自然を通した五感、好奇心、探求心）を豊かに育むため園庭の森づくりを目指す。主な活動は以下のとおり。①子どもたちが里山で自然にふれて遊ぶ、②里山で拾ったドングリを園で苗として植え育てる、③園庭で植樹会を行う、④樹木や大苗に触れながら感性を育むために子どもたちと樹木の名札の作成や水やりなどの樹木管理を実施する。

事業成果

市内の里山に出向き、あまり整備されていない自然環境の中での遊び体験は、子どもたちにとって森の匂い、葉や樹々の形、初めて見る蜘蛛など新しい刺激を受ける経験となった。植樹は、参加者のこれからの人生において自然を身近に感じる貴重な体験になった。子どもと職員で継続して水やりなどの世話をして成長を見守ることで自然環境に興味関心を寄せている。

事業をよく知る関係者の声

・「子どもたちの感性を育む園庭の森づくり」を目指し、園、大学チーム体制で計画を進めてきた。里山体験や園庭植樹体験は、子どもたちはもちろん、参加をした園職員、保護者、学生にとっても自然体験や環境作りの大切さを実感する機会となった。また川崎市市制100周年・全国都市緑化かわさきフェアも踏まえ、市内の都市緑化にも大きく貢献する機会となった。（田園調布学園大・仙田）

参加者の声

・他の参加者の方と力を合わせて植樹できたことは、親にとっても子どもにとっても貴重な体験となった。体験を通し、自然の恵みを感じ考えられる子に成長してくれると思う。（保護者）

・作業自体が楽しかった。親子で植樹したことで「共に育てていく」気持ちが沸き、園と保護者との楽しみとしてのシンボルとなっていくと感じた（大学生）。

里山体験自然遊び（聞こえる？）

ドングリ苗作り（植え付け後）

植樹会（園児、保護者、学生、教職員、地域ボランティアさんによる植樹）

樹木の名札作り

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：12本
その他：里山体験、材料検査、土壌改良

参加者数

県内：142人
県外：　5人
計　：147人

樹種

イロハモミジ、ヤマボウシ、ドウダンツツジ、ギンモクセイ、スモークツリーなど

05W-08　なつかしい未来協議会

佐渡島森のようちえん・がっこうつくり

新潟県佐渡市、石川県珠洲市三崎町

事業概要

佐渡島と甚大な地震被害を受けた能登珠洲市などで、環境整備や基本的インフラの整備を行いながら、安全で楽しい森の学校のハード･ソフトをつくることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①自治会と個人事業主と協力し､ゆずろ公園内の老朽化し破損の多い遊具を撤去し、安全な場所にする、②公園内の荒れた森や道を再整備する、③子どもたちが喜ぶ森のようちえん・がっこうのハード・ソフトづくり、④森のようちえんと林福連携の先進事例の指導者を招き、勉強会を行い、環境整備をする。

事業成果

佐渡で実施した環境整備の経験や知見、そして地中環境の専門家や県外ボランティアとの連携が、困難を極めた能登地震災害支援と森のがっこうつくりに役立った。多くの専門家が、ボランティアとして、能登に駆けつけ、被災者と子どもたちの環境を少しでも良くしようと、力を尽くしていただけた。

事業をよく知る関係者の声

・能登地震による被害で､水やトイレなどのインフラが､半年ほども麻痺する中で、能登に常駐して水などの環境整備してくださったこと、どこから手をつけて良いか分からないほどの混乱と困難に、寄り添い共に復旧してくださったことなど、大変ありがたかった。まだ、復旧の目処が経っていない現状だが、今後ともご助力のほどお願いしたい。（珠洲市被災者　珠洲市会議員）

参加者の声

・地震でいろいろと我慢しなければならなかったが、のびのび自然の中で遊べて、とても楽しかった。
・子どもでも災害支援のボランティアとして、活躍できることを誇りに思った。（森のがっこう　参加者、子ども）

森のようちえん・がっこう オープンキッチン作り

森のがっこう環境整備でバンブーアスレチック作り

森のがっこうつくりで環境整備

企業と団体ボランティアの協働で井戸掘り

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.6ha
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.4ha
森林資源活用面積：1.2ha
森のがっこう環境整備面積：1.3ha

参加者数
県内：431人
県外：283人
計　：714人

05W-09 さかのくち活性化協議会

体験フィールド「ハッピー山」の整備事業

福井県越前市

事業概要

未来のある子どもたちだけではなく、老若男女問わず、幅広く環境学習の場を提供できること、かつより身近な森にすること、またバイオ炭作りを浸透させること目指す。主な活動は次のとおり。①気軽に歩くことができる遊歩道の延長、②バイオ炭の研修会と間伐材、剪定枝を利用したバイオ炭作り、③獣害対策、④散策をしながら里山の自然を楽しみ、子どもたちの自然体験の場として提供する。

事業成果

一昨年は竹でのバイオ炭作り、昨年は勉強会も実施したが、身近に感じる人は少なかった。今回、間伐材や剪定枝を使って、バイオ炭作りの取り組みを簡単に実施したことによって地元の方たちもコツをつかめたように思う。遊歩道が広がったことと、ワイヤメッシュで塞がれていた入り口に開閉式の門扉を設置することができたので、自由な散策や自然体験できるスペースが広がった。

事業をよく知る関係者の声

・竹材や廃材などで炭を作り、バイオ炭作りの良さを広めながら荒れた山林を整備し、獣害問題の解決にもつなげたい。今後は整備や獣害問題について地区外の人たちとも考えられる研修の場になってほしい。(50代、指導員)
・山の手入れで各団体や子どもたちの遊び場にもなり自然に触れたり環境問題を考えるよい場ともなっている。(70代、地元環境部会員)

参加者の声

・クマ騒動で野外活動が難しくなり、子どもたちに自然体験をさせてやりたいとずっと思ってきたが、身近な森に近い環境で実施できて、とてもうれしい。(保育士)
・深い山というわけでもないのに、いろいろな山野草(イカリソウ、ショウジョウバカマなど)を観ることができてよかった。(参加者)
・キジが孵化した後の卵を初めて見た。すごい。(参加者)

気軽に歩くことができる遊歩道で自然体験

自然体験。いろいろな形の葉っぱを見つけた

竹材や間伐材でバイオ炭作りを体験

シカによる食害防止のためワイヤメッシュ設置

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.5ha
草刈り：３回
伐採枝運搬：１回
整備作業：４回
獣害対策：４回
森の学び（里山の自然とのふれあい）：５回
バイオ炭作り：２回

参加者数
県内：237人
県外：　1人
計　：238人

05W-10　（特非）なかまフィールドうじゅうの森

里山にふるさとのある子を育むうじゅうの森事業

山梨県韮崎市

事業概要

人のくらしと里山の関りを知るために親子で里山に入り、森や木を感じ、関わることを通じて全身で学び、森と人とをつなぐことを目的として、０、１、２歳児とその親とで「うじゅうの森」に集まり、様々な自然体験活動を行った。主な体験活動は、①森林資源を利用した工作、②薪割り、たき火を通じての自然エネルギーの活用、③森林散策、④伐倒、森の中で製材、⑤里山・森林以外での活動など。

事業成果

令和５年７月より、新しい道具などを揃えることで、もう少し踏み込んだ森づくり活動を親子で実施できた。また、令和６年４月からは実施回数を増やしたところ、会員数がぐっと増え、参加率も上がった。林業体験だけでなく、畑や田んぼ、川などの活動の中に森での活動が加わることで、参加者の皆さんが構えることなく森づくりに参加できる形になった。

事業をよく知る関係者の声

・０、１、２歳児親子を対象とした伐採や製材をやったことはなかったが、リスク管理などをしっかりした上で、どう関わるかを大事にすれば実施可能。そこから参加者が得られるものも大きいのではと感じた。（50代講師）
・子どもにとって自分が作業に関われなくても、一緒にいる、同じ空間で感じることがとても大事で、いろいろな自然体験活動は貴重な体験となる。（40代保育士）

参加者の声

・森の中がこんなに涼しいなんて知らなかった（猛暑で森の中に広く集えるスペースを作った）。虫がいて、鬱蒼としたイメージで嫌だなと思っていたが、森の存在の大切さを知り、見方が変わった。（２歳児母）
・自分一人ではできない活動を、みんなと一緒にできてとてもありがたい。子どもと一緒にできる形を模索してくれて、親子でとても貴重な経験ができた。（１歳児母）

木を切って出た木屑で遊ぶ子どもたち

雨の森散歩。いつもと違う森の様子を感じる

伐倒した木との関わり（皮を剥く）

親子で森とつながろう（造材&製材、ロゴソールでの製材）

実績とりまとめ

作業内容
伐倒体験：１回
製材体験：１回
製材した木で椅子作り：１回
山仕事と木登り：１回
ほか毎月２～４回森で活動

参加者数
計　：841人

05W-11 社会福祉法人 州浜会

四季を味わい、山の恵を感じる　里山をめざそう！

長野県松本市

事業概要

「子どものために山を活用してほしい」と願いのこもった土地で、子どもたちが駆け巡り、人々が集う場所を目指す。循環型社会が提唱されている中で、自然界には何があり、何が生まれ、どう関係しあい、どう還っていくのか。その世界観を“体感”を通して、生きていく上での糧になっていく“生きた学び”を実践する。主な活動は、①林床整備、②山にあるもので遊具と薪小屋作り、③シイタケの駒打ち。

事業成果

マッチ１本からどう火を起こすのか。山にあるもので、どれをどう使えば良いのか。大人も子どもも山での知恵を聞きながら実践してみる。「これは使えるかな」と、山の中を歩くようになり、木や枝、葉っぱなどに目を凝らし観察する。なぜなのかと疑問に思い親に聞くも「なんでだろうね、不思議だね」と返される場面が多く見受けられた。子どもも大人も自然界と関わる良いきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

・山での遊びは体も心も養われて、笑顔になれる。（講師）
・自然な顔をして過ごしている子が多く、街中の園では見せないたくましい姿に驚いた。自然には不思議な力があると感じる。（副園長）
・大人たちが楽しそう（まるで子どもみたい!）に互いの知恵を絞り合い、活動に取り組んでいる姿が印象的。子どもたちの目にどう映ったのだろうか。（保育教諭）

参加者の声

・（一年前と比べて）だいぶヒトと山が馴染んできた気がする。（保護者）
・林業関係者の話を聞いて生きる知恵を学べた。（保護者）
・子どもが楽しくはしゃいでいる姿を見て、私も山が好きになった。この子たちが大人になって次の子どもたちの代になっても豊かな自然が残っていてほしい。（保護者）

シイタケ原木運び

シイタケの本伏せ

木の切断（ノコギリの使い方やコツを教わる）

檜皮葺き風薪小屋作り

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.3ha
森林資源活用（遊具、薪小屋）：２回
野外活動：５回
シイタケ駒打ち：50本

参加者数
県内：171人
計　：171人

05W-12　（一社）よだか総合研究所

根尾川の森　プレーパーク

岐阜県揖斐川町

事業概要

不登校の子どもたちが、自然とのポジティブなつながりをつくり、環境に対する意識を高める。森の時間で、自由に過ごし、子どもたちが心と身体を回復させる。子どもと一緒に森について学び、環境に対する意識を高める。主な活動は以下のとおり。①樹木医を招いての学習会、②森の手入れ、③森の整備計画の作成、④土壌改良。

事業成果

樹木医を招き、木や森について学んだ後、枯れ枝を切ったり、つる切りをしたりして、参加者と一緒に森を整えた。また、水はけの悪い土地を観察し、森の土中環境について考え、土壌改良も行った。人が一方的に森を使うのではなく、人にも森にも良い環境とは何だろうと、子どもたちと一緒に考える時間となった。今後も、自然界の働きの手助けをし、健やかな森をつくり、人も森も活き活きした場所にしていきたい。

事業をよく知る関係者の声

・樹木の特性、形状、状態、土壌ほか様々な視点から観察する必要が大切だと改めて痛感した。また、人間の視点だけでなく、樹木の気持ちも考慮して折衷案を見出すことが大切だと気付かされ、今後に活かしたい。（スタッフ）
・学ぶことがたくさんあり、貴重な時間となった。木に寄り添える方法を模索したい。（スタッフ）

参加者の声

・何気なく見ている木、生きようとしていることに気づく時を得られ、うれしかった。（参加者大人）
・木とまずは同じ生命体の自分として向き合う、よくみて感じて、どうしたいのか、心地よい状態なのかどうか、情報を読み取り、多角度からいろいろな立場から環境を考える、そんなものの見方を学んだ。また、子どもとの関わり方も同じだなと思った。（参加者大人）
・樹木医になりたいと思った。（参加者子ども）

木槌で叩いて、音の違いを比較して樹の内部の状態を考える

森の沢を観察

尾根で植生の違いを観察

水はけの悪い土地を観察

実績とりまとめ

作業内容
森の学び：２回
土壌改良：0.3ha

参加者数
県内：44人
計　：44人

05W-13 （一社）里の家

森の子フィールド整備と実践、森林体験フィールドのあり方研究

静岡県浜松市

事業概要

次世代の豊かな自然保育を生み出すための森のフィールドづくりを目指し、将来にわたり森の維持・管理・運営ができる体制を整える。浜松市郊外にある約３haの二次林をフィールドに森のようちえんとして「森の子」プログラムを実施した。フィールド整備として、竹林の伐採とチップ化、常緑樹の伐採と整理を森林組合職員と行った。植樹を行い、森の遊具として、アスレチックネットなどを設置し、焚き火場や階段作りを行った。

事業成果

2023年度の森の子参加者は延べ125人。２回行った。10月と１月の連休の集中整備では、伐採や整理などを行い、風の通る里山となった。マミーの森の取り組みで浜松市SDGsコンテストにエントリーし優秀賞を受賞、授賞式で地元保育園とつながることができた。

事業をよく知る関係者の声

浜松市SDGsコンテスト優秀賞を受賞し、審査員から「保育士や林業の専門家と協力しながら、環境教育プログラムを実施している。自然保護、子どもの遊び場の創出、災害に強い森づくり、木材利用を視野に入れた植林など、里山を多面的に活用できるよう整備している。里山の整備に当たっては、多様な世代に渡って協力者を募っており、持続可能な取り組みがされている」と、評価された。

参加者の声

- 子どもたちが、参加後、園で里山遊びをするなど、楽しかったとの感想があった。（保育園職員）
- 継続してほしい。（園児の保護者）
- 子どもたちがすぐに仲良くなって自然の中で発見し、遊びをつくっていく楽しさがあふれていた。（一般参加者）
- 自然の中で自由に遊ぶ森の空間が、子どもの成長にとって大切だと改めて感じた。（講師）

マダケの伐採、除伐作業

階段作り

アスレチックネットの設置

つるを利用してリース作り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：35本
除伐面積：0.5ha
間伐面積：0.5ha
体験プログラム：14回
集中整備（遊具設置、伐採等）：５回

参加者数

県内：144人
県外：　2人
計　：146人

05W-15 （一社）ウインダムファーム

人と自然と動物と生きる（森のがっこう）つくり

愛媛県久万高原町

事業概要

引きこもりなどから再度社会にチャレンジする青少年たちや、障がい者、子どもたちと保護者が当事業を通じて笑顔になるような、人と自然と動物が共生する森のようちえん・がっこうづくりを目的とする。主な活動は次のとおり。①土地を整地して動物とのふれあい環境を整える、②町内外の子どもたちや障がい者の乗馬体験、動物とのふれあい、③木工体験や森林浴、動植物観察などの森林環境教育。

事業成果

木や雑草に覆われた荒れ地を地拵え・整地し、地盤が緩い場所には赤土と砂を投入し、こうして動物（馬やポニー）を自由に走らせることができる広さの放牧場を作り、森のがっこう・ようちえん事業の拠点を整備した。放牧地づくりでは柵の設置や周辺の環境整備で町内外からボランティアを募集し、子どもたちを中心に延べ約100名が集まり、今後の新たな参加者候補にすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- 地盤が緩く雨が降るとすぐに泥状になり赤土や砂を大量に入れることになるなど想定外の事案が多々あり課題となった。（スタッフ）
- 雑草だらけの荒れ地が見違えるようになって驚いた。町おこしの観点からも今後の活動が楽しみだ（町役場職員）
- 人と動物の共生を中心にしたユニークな森林教育だ。幼稚園や児童クラブ、障がい者施設などと連携して継続して行いたい。（障がい者支援施設職員）

参加者の声

- 子どもと一緒に一つのことができたのが、とてもよかった。（柵作りの参加者・女性30代）
- 家族で来ました。自然の中で馬とかに触れてとても癒された。（小屋のペンキ塗り参加者・男性30代）
- お馬さんに乗れてうれしかった。（花の植栽参加者・小学生男子）

凹凸を削って平地にする

柵作りイベント全景

花植えする子どもたち

完成した牧場全景

実績とりまとめ

作業内容

伐採面積：0.5ha
草刈面積：5ha
廃材撤去：４t車7台分
地拵・整地：8ha
植付本数：17本
縦杭設置：100本
横板設置：100枚／２回
花植・草刈：２回
ペンキ塗り・花植：２回
馬小屋作り：
木板15枚／１回

参加者数

県内：105人
計　：105人

樹種

ブルーベリー

05W-16 （一社）畑とキャンプの自由な学校みんなの学校

こどもの森づくり・こども森キャンプ事業

大分県大分市

事業概要

目的は団体所有の森林整備である。子育て世代、若者世代が中心となり、その森の整備を行うことで、子どもたちの森林教育を行う場を形成することである。また、その整備された森を活用し、こども森キャンプを実施して、子どもたちの森に対する理解を深め、自己肯定感を高める。内容としては、①森の整備活動（下刈り、伐採、剪定、柵の整備）、②地域の若者へのボランティア研修（リスクマネジメントなど）、③こども森キャンプの実施、自然体験をとおして森に親しみを得る。

事業成果

ヤブが生い茂った森、また剪定が行われていない森であったが、伐採と危険な枝を剪定すること、また柵の整備が進んだことで子どもが安全に活動できる森になった。整備活動では、子育て世代の親が参加して、整備の大変さについて身をもって感じていた。また地域の若者が整備とこども森キャンプの運営を担う部分が生まれた。そのことで、次世代のリーダー養成にも繋がった。一過性のイベントに終わらず団体としても、森の整備を担う人材が育った。

事業をよく知る関係者の声

・実際に現地を見た際に、子どもたちが安全に森に入って観察できる場所が増え、望ましい森になったと感じた。（自然観察指導員）

参加者の声

・ひみつきちを作りやすくなった。（参加者、小学生）
・安全性が高まり、子どもを預ける際に心配が減った。（参加者、保護者30代）

地域の若者が整備に参加

こどもの森で柵の整備

こども森キャンプ

こども森キャンプで焚き火

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
除伐面積：1ha
間伐面積：1ha
自然体験：20回
ボランティア研修：３回

参加者数
県内：62人
計　：62人